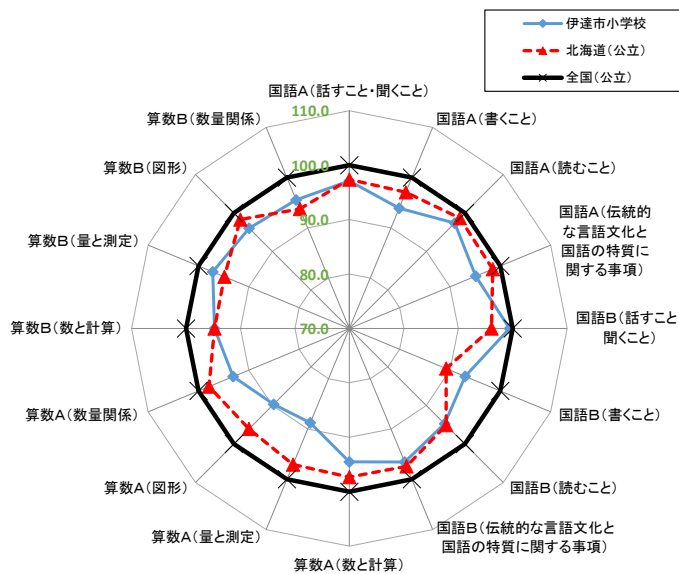


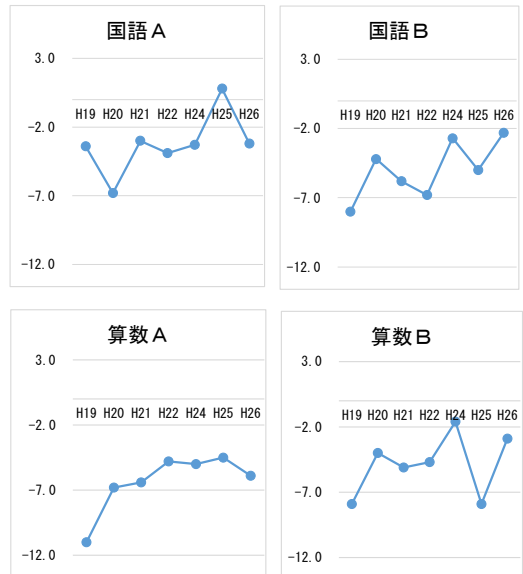
伊達市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:9校、児童数:293名)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

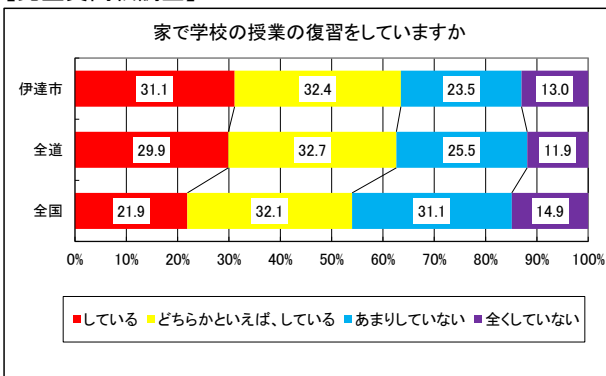


【平均正答率の推移】

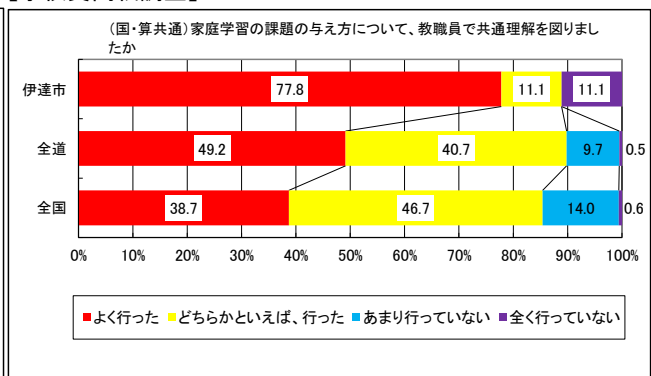


注「平均正答率-全国(公立)の平均正答率」の差を経年変化で示した

【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平均正答率は、北海道の平均正答率と比較すると、国語A、算数Aはやや下回っており、国語B、算数Bはほぼ同じ結果となっている。 ○ 平均正答率の推移は、国語B、算数Bが昨年度より上回り、全国との差が縮まっている。 ○ 領域別は、北海道の平均正答率と比較すると、国語B「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、算数B「数と計算」、「量と測定」、「数量関係」が上回っている。国語B「話すこと・聞くこと」は、全国とほぼ同じであり、その差が最も小さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校ごとに学力・学習改善プランを策定し、組織的に学力向上の取組を推進してきた結果、全体として改善傾向が見られ、全国との差が縮まってきたと考えられる。 ○ 特に、家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図って取組を進めたことにより、家で学校の復習を行う児童が増え、いくつかの領域で北海道の平均正答率を上回る結果につながったと考えられる。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家で授業の復習をしていると回答した児童は、北海道、全国と比較して多い。 	
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習の課題の与え方について教職員で共通理解を図り、児童に対して、家庭での学習方法等について具体例を挙げながら指導した学校が多い。 	

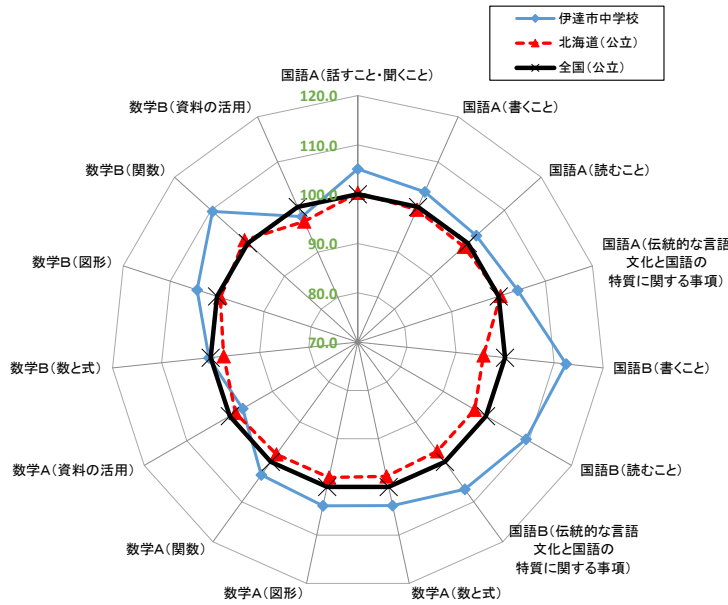
【伊達市の学力向上策】

- ◎ 伊達市学力テストの実施
- ◎ 学校ごとの学力・学習改善プランの策定
- ◎ 分科会形式の伊達市教育実践交流・研修会の実施
- ◎ 研究校を指定した公開研究会の実施

伊達市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:4校、生徒数:289名)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

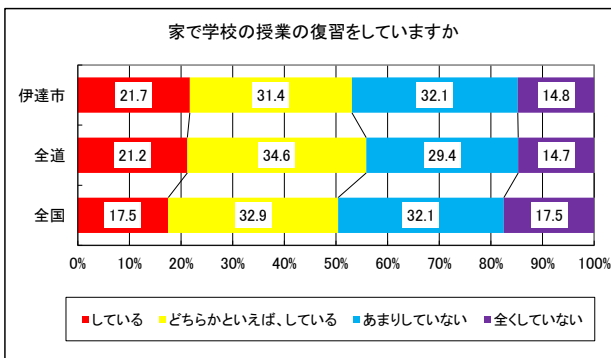


【平均正答率の推移】

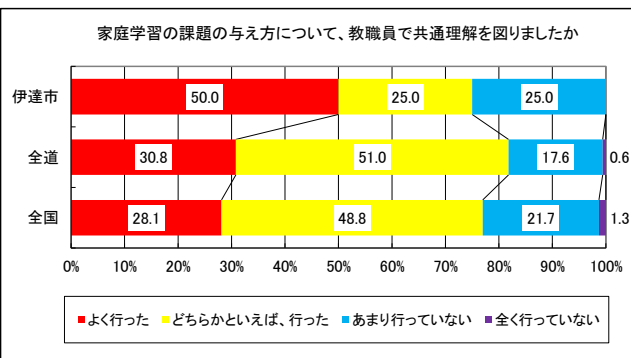


注)「平均正答率-全国(公立)の平均正答率」の差を経年変化で示した

【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平均正答率は、全ての教科で全国の平均正答率を上回っている。 ○ 平均正答率の推移は、全ての教科において昨年度より上回っている。 ○ 領域別は、北海道と比較すると、数学A「資料の活用」を除く全ての領域で上回っている。全国と比較しても数学A・Bの「資料の活用」を除く全ての領域で上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校毎に学力・学習改善プランを策定し、組織的な学力向上の取組を推進したことにより、全国の平均正答率を上回る結果となったと考えられる。 ○ 特に、家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図って取組を進めたことにより、家で学校の復習をする生徒が増え、学習内容の確実な定着につながったと考えられる。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家で授業の復習をしていると回答した生徒は、全国と比較して多い。 	
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習の課題の与え方について教職員で共通理解を図り、生徒に対して、家庭での学習方法等について具体例を挙げながら指導した学校が多い。 	

【伊達市の学力向上策】

- ◎ 伊達市学力テストの実施
- ◎ 学校ごとの学力・学習改善プランの策定
- ◎ 分科会形式の伊達市教育実践交流・研修会の実施
- ◎ 研究校を指定した公開研究会の実施